

第3部 ハンディターミナルに関する調査報告

ハンディターミナルは携帯型の特長を活かし、データの発生時点での収集並びに処理ができることから流通、運輸、製造等のあらゆる業種で活用され、業務の省力化・効率化の促進に貢献してきた。

装置の機能に関しては利用者側から各業務に最適な機器の要求があり、装置開発メーカーも利用者の要求を満たすべく携帯性を追求する中で、高い耐環境性能、大画面液晶、大容量メモリー、近距離無線通信機能、広域無線通信機能、通話機能、NFCリーダライタ機能、RFIDリーダライタ機能等の搭載が進んでいる。

近年ではハンディターミナルに加えて、スマートフォン、タブレット端末等の携帯端末が業務利用されており、またハンディターミナルの業務範囲も広がりつつある。

2020年度のハンディターミナルの出荷実績は、2019年度と比較して、国内向け出荷では台数で36%減少し、金額では37%減少した。また、輸出では台数で21%減少し、金額では26%減少した。

各カテゴリー別にみると、スキャナー一体型の国内向け出荷は、台数で26%減少し、金額では25%減少した。標準型(※)の国内向け出荷は、台数で63%減少し、金額では58%減少した。

2020年度以降の4カ年見通しは、国内向け出荷台数は増加が続き、その後微増に転ずると見通した。出荷金額は増加が続き、その後横ばいになると見通した。

※公表によって特定企業の実績値が推定される可能性があるため、2017年度以降の実績は、標準型とノートパッド型を合わせて集計している。また同理由により、輸出分についても標準型とノートパッド型を合わせて集計する。さらに2018年度以降の輸出分は全てのカテゴリーを合わせて集計している。

2018年度より見通しは従来のノートパッド型を標準型に含めて調査、集計している。